

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年10月10日
【四半期会計期間】	第15期第1四半期（自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日）
【会社名】	サイバーステップ株式会社
【英訳名】	CyberStep, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 類
【本店の所在の場所】	東京都杉並区和泉一丁目22番19号
【電話番号】	03-5355-2085（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理室長 今井 正昭
【最寄りの連絡場所】	東京都杉並区和泉一丁目22番19号
【電話番号】	03-5355-2085（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理室長 今井 正昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第14期 第1四半期連結 累計期間	第15期 第1四半期連結 累計期間	第14期
会計期間	自平成25年 6月1日 至平成25年 8月31日	自平成26年 6月1日 至平成26年 8月31日	自平成25年 6月1日 至平成26年 5月31日
売上高 (千円)	353,228	455,343	1,393,812
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	35,851	57,782	50,822
四半期純利益又は四半期(当期) 純損失 ( ) (千円)	21,484	68,593	6,020
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	16,040	67,601	31,528
純資産額 (千円)	837,372	859,200	901,442
総資産額 (千円)	1,111,511	1,342,682	1,371,657
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期(当期)純損失 金額 ( ) (円)	10.39	29.71	2.80
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	8.31	-	-
自己資本比率 (%)	72.4	58.0	61.2

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等を含めておりません。
3. 第14期及び第15期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため記載しておりません。
4. 当社は、平成25年12月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

## 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### （1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融緩和を背景に円安、株高が進行し、国内景気は一部改善の兆しが見られました。しかし、原材料価格の上昇や新興国経済の成長鈍化といった景気を下押しするリスクも存在し、先行き不透明な状況で推移しました。

わが国のオンラインゲーム業界は、引き続きユーザー数は伸びているものの、提供タイトルの増加・ソーシャルゲーム市場の拡大から事業環境が大きく変化を遂げております。

このような事業環境のもと、当社グループは当第1四半期連結累計期間におきましても、引き続き国際競争力のあるオンラインゲームの開発を続け、海外各国の運営会社との協力関係を深めながら安定的に成長させるとともに、日本国内はもとより海外各国での自社運営サービスの事業領域の拡充を図ってまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間においては、ロイヤリティ等売上高28百万円（前年同期比37.6%減）、自社運営売上高は427百万円（前年同期比38.7%増）、売上高合計で455百万円（前年同期比28.9%増）となりました。利益面につきましては、営業損失59百万円（前年同期は営業利益41百万円）、経常損失57百万円（前年同期は経常利益35百万円）、税金等調整前四半期純損失57百万円（前年同期は税金等調整前四半期純利益32百万円）となりました。

海外からのロイヤリティ収入に係る外国税額について控除しきれない金額が発生し、法人税等を10百万円（前年同期比1.3%減）計上し、最終的には四半期純損失68百万円（前年同期は四半期純利益21百万円）となりました。

当社グループはオンラインゲーム事業の単一セグメントであるため、セグメント情報ごとの記載をしておりません。

(2) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ28百万円減少し、1,342百万円となりました。これは主に、売掛金115百万円、ソフトウェア22百万円の増加があった一方で、現金及び預金158百万円の減少が生じたことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ13百万円増加し、483百万円となりました。これは主に、未払法人税等7百万円の増加によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ42百万円減少し、859百万円となりました。これは主に、新株予約権18百万円の増加、新株予約権行使による自己株式の処分を21百万円行った一方で、利益剰余金83百万円の減少によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は30百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 中長期的な会社の経営戦略

企業が持続的に成長し、その企業価値を高めていく為には、「収益性」「成長性」「安定性」の3つの要素をバランスよく追求することが大切であります。当社グループは未だ小規模のベンチャー企業でありますので、当面は経営の安定性を確保しながら企業規模を拡大成長させていくことが重要であると考えております。

そのための方策として、すでに進出済みの韓国、中国、台湾、香港、タイ、インドネシア、シンガポール、マレーシア、フィリピン、ベトナム、ブラジル、オランダ等以外の国々へ、当社グループ及び当社グループオンラインゲームの認知度を高めるべく自社運営サービス及びライセンス供与を進めること、各国の運営会社との連携を緊密にしながらサービスタイトルがヒットするよう努めること、当社グループの強みである開発力を生かしオンラインゲーム及び関連製品の開発を今後も継続して続けることを着実に実行してまいります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,400,000
計	8,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年10月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,322,500	2,322,500	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100 株であります。
計	2,322,500	2,322,500	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成26年10月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年6月1日～ 平成26年8月31日	-	2,322,500	-	360,329	-	350,329

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年5月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式23,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式2,298,400	22,984	-
単元未満株式	600	-	-
発行済株式総数	2,322,500	-	-
総株主の議決権	-	22,984	-

【自己株式等】

平成26年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
サイバーステップ株式会社	東京都杉並区和泉一丁目22番19号	23,500	-	23,500	1.01
計	-	23,500	-	23,500	1.01

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年6月1日から平成26年8月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年6月1日から平成26年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、アスカ監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	762,032	603,081
売掛金	220,120	336,071
商品及び製品	845	766
原材料及び貯蔵品	4,248	2,336
その他	81,712	74,381
流動資産合計	1,068,959	1,016,637
固定資産		
有形固定資産	50,631	49,914
無形固定資産		
ソフトウェア	192,192	214,494
無形固定資産合計	192,192	214,494
投資その他の資産		
保証金	42,985	43,251
その他	16,887	18,384
投資その他の資産合計	59,873	61,636
固定資産合計	302,698	326,045
資産合計	1,371,657	1,342,682
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,327	3,470
短期借入金	1 100,000	1 100,000
1年内返済予定の長期借入金	51,000	51,667
未払法人税等	23,267	31,072
その他	142,630	158,698
流動負債合計	318,225	344,908
固定負債		
長期借入金	151,990	138,573
固定負債合計	151,990	138,573
負債合計	470,215	483,481
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	360,329	360,329
資本剰余金	350,329	350,329
利益剰余金	157,251	73,495
自己株式	25,419	3,785
株主資本合計	842,490	780,368
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	200	263
為替換算調整勘定	2,716	1,787
その他の包括利益累計額合計	2,516	1,524
新株予約権	61,468	80,357
純資産合計	901,442	859,200
負債純資産合計	1,371,657	1,342,682

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日)
売上高	353,228	455,343
売上原価	85,577	119,322
売上総利益	267,650	336,020
販売費及び一般管理費	225,991	395,050
営業利益又は営業損失( )	41,659	59,030
営業外収益		
受取利息	113	100
為替差益	-	2,232
その他	104	244
営業外収益合計	218	2,577
営業外費用		
支払利息	758	1,169
為替差損	4,936	-
その他	330	161
営業外費用合計	6,026	1,330
経常利益又は経常損失( )	35,851	57,782
特別損失		
固定資産除却損	3,414	-
特別損失合計	3,414	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	32,437	57,782
法人税、住民税及び事業税	10,952	10,810
法人税等合計	10,952	10,810
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	21,484	68,593
四半期純利益又は四半期純損失( )	21,484	68,593

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	21,484	68,593
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	30	62
為替換算調整勘定	5,413	928
その他の包括利益合計	5,444	991
四半期包括利益	16,040	67,601
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,040	67,601
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

( 会計方針の変更等 )  
 該当事項はありません。

( 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理 )  
 該当事項はありません。

( 四半期連結貸借対照表関係 )

1 当座借越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うために取引銀行と当座借越契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
当座借越極度枠	100,000千円	100,000千円
借入実行残高	100,000	100,000
差引額	-	-

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年8月31日)
減価償却費	5,181千円	5,025千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年6月1日 至平成25年8月31日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年6月1日 至平成26年8月31日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年6月1日 至平成25年8月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成26年6月1日 至平成26年8月31日)

当社グループは、オンラインゲーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年8月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )	10円39銭	29円71銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失( ) (千円)	21,484	68,593
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )(千円)	21,484	68,593
普通株式の期中平均株式数(株)	2,068,300	2,308,783
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	8円31銭	-
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	518,000	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

- (注) 1. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
2. 当社は、平成25年12月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

当社は平成26年5月26日開催の取締役会において、会社法第236条、第238条及び第240条の規定に基づき新株予約権を発行することを決議し、第22回新株予約権を以下のとおり発行いたしました。

1. 新株予約権の割当日

平成26年9月1日

2. 新株予約権の割当対象者

当社の取締役1名及び従業員19名

3. 本新株予約権の目的たる株式の種類及び数

当社普通株式 1,008,000株

4. 発行した新株予約権の総数

10,080個(新株予約権1個当たりの目的たる株式数100株)

5. 新株予約権の払込金額

新株予約権1個当たり 837円

6. 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、次により決定される1株あたりの払込金額に、本新株予約権1個あたりの目的である株式の数を乗じた金額とする。

7. 新株予約権の行使期間

平成27年8月1日から平成30年7月31日まで

8. 新株予約権の取得事由及び条件

当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる会社分割についての分割契約もしくは分割計画、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画について株主総会の承認(株主総会の承認を要しない場合には取締役会決議)がなされた場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権の全部を無償で取得することができる。

9. 増加する資本金及び資本準備金に関する事項

(1) 本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とする。計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。

(2) 本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、前号の資本金等増加限度額から、前号に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

10. 新株予約権の譲渡制限

譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。

## 2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年10月9日

サイバーステップ株式会社

取締役会 御中

### アスカ監査法人

指 定 社 員	公認会計士	田 中 大 丸
業 務 執 行 社 員		
指 定 社 員	公認会計士	石 渡 裕 一 郎
業 務 執 行 社 員		

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているサイバーステップ株式会社の平成26年6月1日から平成27年5月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年6月1日から平成26年8月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年6月1日から平成26年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、サイバーステップ株式会社及び連結子会社の平成26年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。